

「ディスカバー農山漁村の宝」第7回選定  
選定地区及び選定者（案）

令和2年11月

# 「ディスカバー農山漁村の宝」(第7回選定)選定地区及び選定者位置図(案)

**中国** 【環境保全・移住定住】

No.24 岡山県 瀬戸内市  
裳掛地区コミュニティ協議会

【環境保全・輸出】

No.25 島根県 松江市  
株式会社ウッドスタイル

【6次化】

No.26 山口県 山口市  
株式会社秋川牧園と飼料用米生産者グループ

**近畿** 【環境保全】

No.21 奈良県 橿原市  
大和平野土地改良区

【農泊・環境保全】

No.22 京都府 南丹市  
ニシオサプライズ株式会社

【6次化】

No.23 兵庫県 南あわじ市  
福良漁業協同組合

**東海** 【若者の活躍・GAP】

No.17 岐阜県 北方町  
岐阜県立岐阜農林高等学校流通科学科

【環境保全・高齢者の活躍】

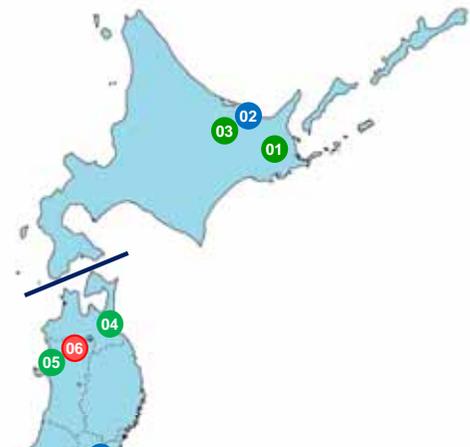
No.18 愛知県 安城市  
榎前環境保全会

【新しい産地づくり】

No.19 三重県 桑名市  
桑名もち小麦協議会

【地域づくり】

No.20 三重県 多気町  
高橋 幸照



**北海道** 【女性の活躍】

No.01 北海道 中標津町  
けねべつ地域子育て支援ネットワーク

【6次化】

No.02 北海道 網走市  
網走ビール株式会社

【若者の活躍】

No.03 北海道 美幌町  
北海道美幌高等学校

**四国** 【農産物のブランド化】

No.27 徳島県 阿波市  
GOTTSO阿波

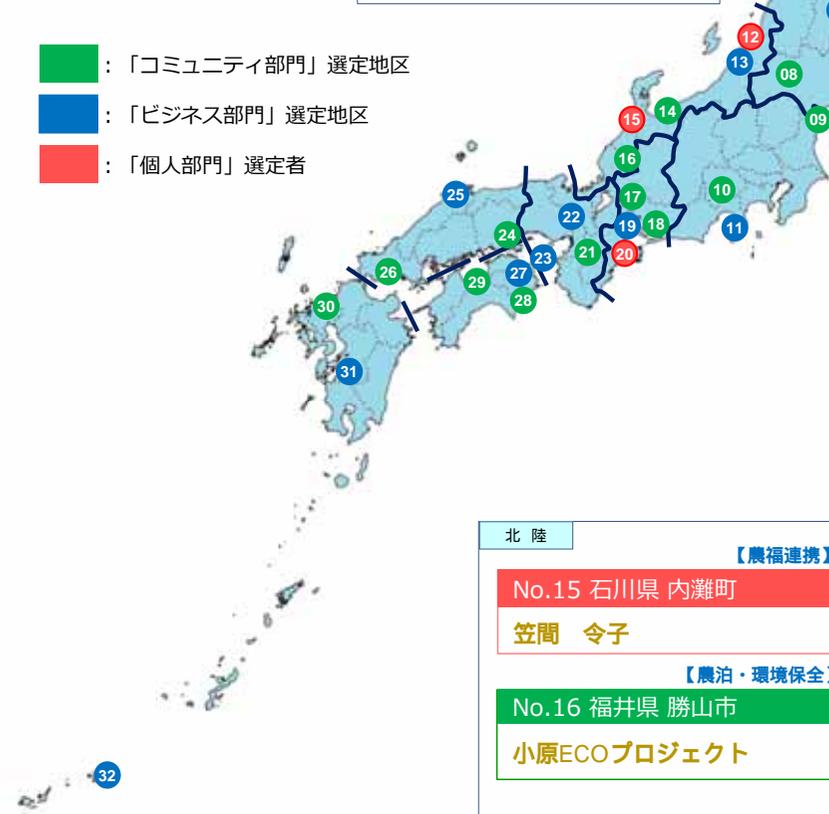
【新しい産地づくり・鳥獣害対策】

No.28 徳島県 那賀町  
木沢林業研究会

【若者の活躍】

No.29 愛媛県 四国中央市  
愛媛県立土居高等学校情報科学部

- : 「コミュニティ部門」選定地区
- : 「ビジネス部門」選定地区
- : 「個人部門」選定者



**関東** 【環境保全】

No.09 茨城県 北茨城市  
十石堀維持管理協議会

【人材育成・農福連携・6次化】

No.10 山梨県 山梨市  
はやぶさ未来クラブ

【鳥獣害対策・ジビエ】

No.11 静岡県 伊豆市  
伊豆市食肉加工センター「イズシカ問屋」

**東北** 【農福連携・6次化】

No.04 青森県 おいらせ町  
観光農園アグリの里おいらせ

【雇用・GAP】

No.05 秋田県 三種町  
三種町森岳じゅんさいの里活性化協議会

【農泊・農村文化体験】

No.06 秋田県 大館市  
石垣 一子

【輸出・6次化】

No.07 宮城県 大崎市  
有限会社マルセンファーム

【輸出・6次化】

No.08 福島県 猪苗代町  
会津よつば農業協同組合猪苗代稲作部会

**北陸** 【農福連携】

No.15 石川県 内灘町  
笠間 令子

【農泊・環境保全】

No.16 福井県 勝山市  
小原ECOプロジェクト

【環境保全】

No.12 新潟県 新発田市  
小柳 繁

【6次化】

No.13 新潟県 阿賀野市  
あがの衆

【環境保全・食育教育】

No.14 富山県 魚津市  
小菅沼・ヤギの杜

**九州・沖縄** 【農泊・伝統継承】

No.30 福岡県 糸島市  
株式会社いとしいとしま

【農泊】

No.31 熊本県 人吉市  
郷土の家庭料理 ひまわり亭

【6次化】

No.32 沖縄県 宮古島市  
しろう農園株式会社

# 01

## けねべつ地域子育て支援ネットワーク

— 関係機関の連携で酪農ママを支えます！ —



「えみふる」での一時預かりの様子

コミュニティ部門

女性の活躍



所在地：北海道 中標津町



実態調査の様子

### 概要

- 行政機関やJAと連携し、先進地の視察や農家への実態調査を実施。この結果を踏まえて「親子サロン」を開催し、女性農業者が持つ、子育てと酪農を両立することへの悩みや不安について意見交換。
- JA所有の遊休施設を児童館機能と一時預かりを一元的に行う「えみふる」へ改修し、子育て世代の農業者を支援。

### 成果

- 出産前後の女性農業者が孤独を感じているという実情を受け、一時預かりや出張託児を実施。
- 一時預かりは、農業者が優先利用できる仕組みになっており、令和元年度では約1,000人の実績、地域に欠かせない存在に。



親子サロンの様子

# 02

あばしり

# 網走ビール株式会社

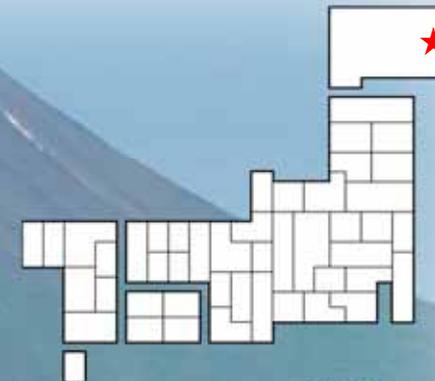


— 網走の特性と産品を活かした地ビール造り！ —



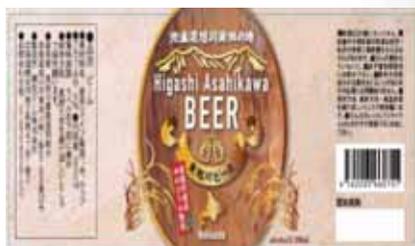
ビジネス部門

6次産業化



あばしり  
所在地：北海道 網走市

網走の産品や特徴を活かした商品



東旭川からの依頼で醸造したPB商品ラベル

## 概要

- 監獄や先住民モヨロ人をラベルに採用、「流水」を仕込水に使った、地域の特性を活かした商品づくりにより、網走の認知度向上。
- 醸造設備に併設した「YAKINIKUビール館」では、地元産和牛「あばしり和牛」や道産素材を使った料理で網走ビールを提供。

## 成果

- 年間100万本以上の商品を製造し、道外へ60%を販売、海外輸出にも積極的に取り組み、10%をアジア圏や欧州へ出荷し、網走の認知度向上に貢献。
- 近年は、地元企業や団体からの依頼を受けたPB（プライベート・ブランド）商品の醸造も。



輸出に取り組む優良事業者表彰（北海道農政事務所主催）

# 03

びほろ

## 北海道美幌高等学校

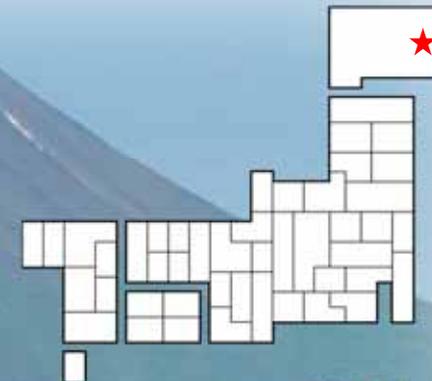
— 高校生が実践する自然環境改善！！ —



網走湖での水質調査・魚介類生態調査

コミュニティ部門

若者の活躍



びほろちょう

所在地：北海道 美幌町



地元小学生とのウチダザリガニの駆除

### 概要

- 美幌博物館、東京農業大学を含めた三者で、特定外来生物ウチダザリガニ駆除と有効な活用方法の研究を実施。
- 駆除活動を通じ、網走川流域の自然環境の改善や地域住民との交流会等により流域環境の保全活動を広く発信。

### 成果

- 2015年から地域住民を対象として開始した交流会は、2018年からは幼稚園児から高校生までも対象とした活動に発展。
- 水系での活動範囲は2 km<sup>2</sup>（平成27年度）から60 km<sup>2</sup>（令和元年度）に大幅に拡大。交流会等の参加人数も15人から500人に増加。



木禽川でのニホンザリガニ生態調査

# 04

## 観光農園アグリの里おいらせ



— 通年型の観光農園で地域を元気に —

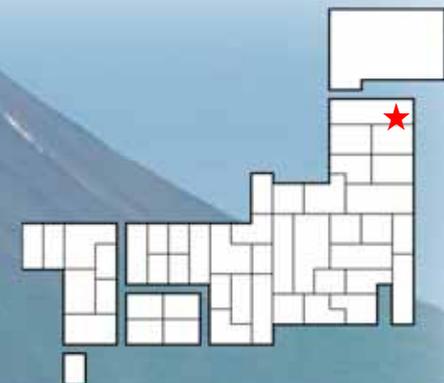


観光農園アグリの里おいらせ 全景

コミュニティ部門

農福連携

6次産業化



ちょう

所在地：青森県 おいらせ町



熱帯果樹園での収穫体験

### 概要

- 生産者、障害者、教育、行政等と連携し「農業・地域・観光・福祉」をつなぎ合わせた観光農園を展開。
- 担い手確保や地域活性化を目的として「もち小麦普及委員会」を設立。休耕地の活用と農福連携による取組を実施。

### 成果

- 人口減少の中、毎年40万人以上が訪れる県内有数の観光スポットとして、また、地元の交流拠点や障害者・高齢者の活躍の場として発展。
- もち小麦の6次産業化により、地元を中心に22店舗、新商品40種以上を販売し、学校給食に採用されるなど、地元食材として定着。



住みよい地域づくりと美しい景観づくり推進活動

# 05

みたねちょう もりたけ

## 三種町森岳じゅんさいの里活性化協議会



— 国産じゅんさいを守り地域を元気に！ —

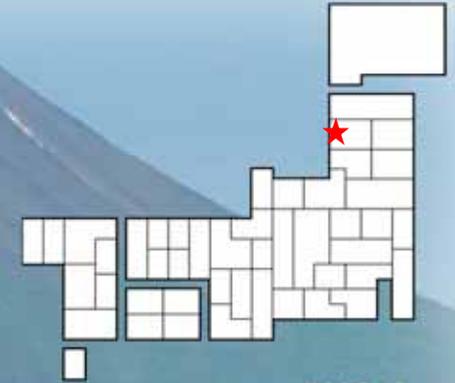


じゅんさいの圃場とPRポスター

コミュニティ部門

雇用

GAP



所在地：秋田県 三種町



国内での商談会の様子

### 概要

- 全国で生育が減少している「じゅんさい」の全国屈指の産地として、JGAP団体認証を受け、生産の維持と地域活性化に向けて活動。
- 交流人口拡大や観光振興に向け、じゅんさい摘み取り体験や、じゅんさい摘み取り選手権大会といったイベントを実施。



世界じゅんさい摘み採り選手権大会

### 成果

- じゅんさい摘み取り体験来場者は毎年1,000人程度になり、意欲ある農家の育成に貢献。
- じゅんさい栽培を通じて、農家間の意見交換の場が形成され、農家間の連携が生まれた。

# 06

いしがき かずこ  
石垣 一子



— 日本一から世界一の体験受入地域を目指して —



言葉から地域を伝える秋田弁ラジオ体操（本人：一番右）

個人部門

農泊

農村文化体験



おおだて  
所在地：秋田県 大館市



本場のたんぼづくり体験でのおもてなし

## 概要

- 農業体験や本場のきりたんぼづくり体験を核とした農泊等の受け入れ推進を図り、地域の活性化に努めている。
- 官民共同の「大館市まるごと体験推進協議会」の会長として、自ら台湾に出向いてPRキャンペーンを実現。

## 成果

- 外国人の宿泊者は、0人（平成28年度）から268人（令和元年度）に増加し、インバウンドの受け入れにつながった。
- 外国人宿泊者の国籍は28カ国にも増え、世界的なひろがりが出てきている。



台湾での商談会で熱くPRする石垣会長

# 07

# 有限会社マルセンファーム

— 水害からの復興、デリシャストマトを世界へ! —

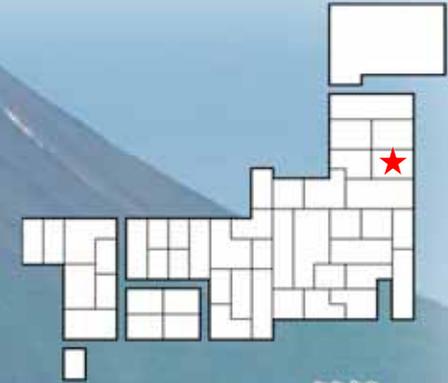


プレミアムトマトジュースを国内・海外へ

ビジネス部門

輸出

6次産業化



おおさき

所在地：宮城県 大崎市



令和元年東日本台風により施設が浸水

## 概要

- 栽培が難しい高糖度トマトを経営の柱とし、「極上デリシャス」として差別化。菊やホウレンソウとの複合経営で安定雇用を実現。
- 令和元年東日本台風により全ての施設が浸水したが、約40人を継続雇用しながら復旧。これを機に首都圏スーパーに新規出荷。

## 成果

- 高糖度トマト以外にも果汁糖度で選別規格を定めたプレミアムトマトジュースを販売。最高級のジュースは1万5千円/本で販売。アルコールを摂取できないドライの富裕層の取り込みにも成功。
- 海外からの研修生の受け入れ、農業大学校や農業改良普及センターの職員研修も受け入れ、技術・経営等の習得の地域拠点となっている。8



複合経営で年間を通じた安定雇用を実現

# 08

# 会津よつば農業協同組合猪苗代稲作部会

— 目指すは、世界一の「寿司ライス」！ —

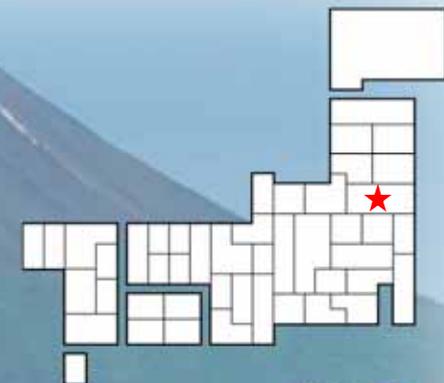


地元企業によるブランド米活用6次化商品

コミュニティ部門

輸出

6次産業化



所在地：福島県 いなわしろまち 猪苗代町



JGAP（米穀）団体認証取得祝賀会

## 概要

- 農業者とJAと町が一体で作上げたブランド米を活用した、世界を巻き込んだ地域活性化の取組を推進。
- ブランド米を原料とした日本酒を開発し、6次産業化にも取り組み、販路を拡大。

## 成果

- ブランド米「いなわしろ天のつぶ」や日本酒「純米吟醸・いなわしろ天のつぶ」は海外に輸出。
- 企業とも連携し、多方面への啓発・知名度向上により、福島県唯一のオリジナル米としてブランド米の地位を確立。



香港でシェフと会談する部会員とJA職員

# 十石堀維持管理協議会

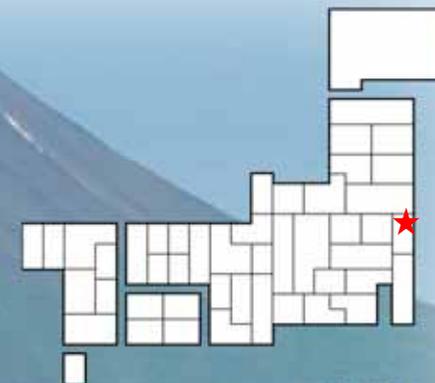
— 先人のレガシー十石堀に学び人と地域を育む —



毎年十石堀で開催している小学生の校外学習

コミュニティ部門

環境保全



きたいばらき

所在地：茨城県 北茨城市



ボランティアによる親子参加のウォーキング

## 概要

- 十石堀は、江戸時代（1669年）に建設され現在に至るまで維持管理されてきている。昭和57年（1982年）に、維持管理と啓発を目的に協議会を設立し、エコツーリズムや地域学習等を開催。
- 十石堀の歴史だけでなく、炭鉱跡や地質遺産等を含めたエコツーリズムを行っており、地域観光の資源としての役割を果たす。

## 成果

- 小学生の校外学習、エコツーリズム等の参加者は273人（令和元年度）。地域資源を受け継ぐ次世代の育成が進んでいる。
- 平成31年1月に市の史跡指定、令和元年9月には世界かんがい施設遺産に登録。この結果、アメリカ・カナダからの視察を受け入れ。



歴史や農地維持について地域で勉強会を開催

# 10

みらい

## はやぶさ未来クラブ

— 次世代に繋げ、持続可能な農業を —



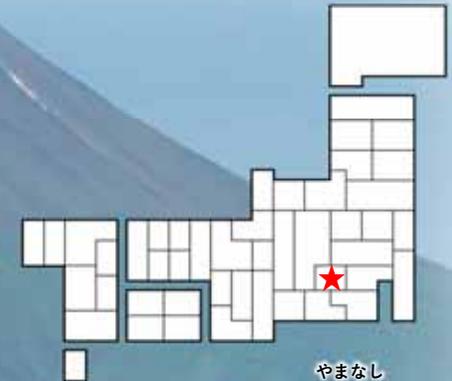
生食用ブドウの収穫、時には障害者とも作業を行う

コミュニティ部門

人材育成

農福連携

6次産業化



所在地：山梨県 山梨市



農業体験：園主を囲んで懇談する学生達

### 概要

- 県のエコファーマーやアグリマスター（農業熟練者）に認定されたブドウ農家が、若者への農業指導を多く依頼される中、周囲の有志とともに農業が抱える諸問題に対応していくため設立。
- 農業体験希望者を受け入れ人材育成（農福連携を含む）、就農希望者には農業指導を実施。さらには、ブドウ以外の果物の栽培や、ワイン醸造に取り組み、経営強化を行う。

### 成果

- 人材育成として300人を超える高専生・大学生を受け入れ（令和元年度）。脱サラを目指す社会人や、福祉事務所を通じて障害者も受け入れる。
- ブドウ栽培のみならず、人材育成やワイン醸造を手掛ける法人を更に2法人設立。ワインについては規格外ブドウ1tを活用した。
- 数少ない新規就農者をサポートできる体制を構築。



規格外のブドウを利用した自社ワイン

# 11 伊豆市食肉加工センター「イズシカ問屋」



— 食べて守る、森のみらい。 —

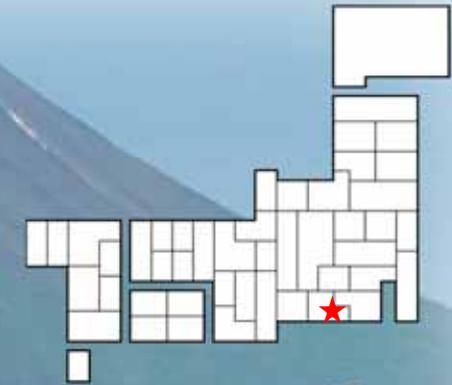


イズシカ問屋シンボルマーク

ビジネス部門

鳥獣害対策

ジビエ



所在地：静岡県 伊豆市



鳥獣害対策勉強会

## 概要

- 獣害対策として捕獲し、山へ埋却されていたシカ・イノシシを買い取り、解体・精肉・卸売を行う「イズシカ問屋」を設立。
- 地元高校によるメニュー開発や、小中学校での鳥獣被害対策の出前授業・試食を実施し、獣害対策と食肉利用の両面から若年層へPRを実施。また、住民への「鳥獣害対策勉強会」や「わな講習会」も実施。

## 成果

- センターに搬入されるシカ・イノシシは毎年1千頭前後となり、売上（ペットフード含む）は近年2,500万円を超えている。
- イズシカ問屋の稼働後、市内捕獲頭数は設立時から比べ約2倍となり、イズシカの取扱い販売店は設立時の3店舗から16店舗となるなど、年を追うごとに獣害対策及びブランド化が進んでいる。



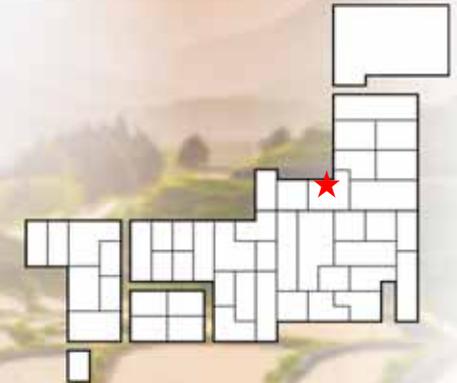
イベントでイズシカをPR



集会場前で撮った元気のいい上三光集落の参加者

個人部門

環境保全



所在地：新潟県 新発田市

## 概要

- 地域資源を宝と捉え農業体験活動に取り組み、耕作放棄地の有効利用、獣害対策、集落再生と地域活性化を目指す。
- GISを活用した集落環境診断など、集落再生に向けた様々な取組を実施。

## 成果

- 田植えや稲刈り体験の他、柿酢作り、正月飾りなど集落資源を活用したイベントには、約200人が参加（令和元年度）。
- ビオトープへの再生などにより、耕作放棄地の解消面積は、0.4ha（平成27年度）から4.5ha（令和元年度）に年々増加。



田植え体験の前に撮った一般の参加者



耕作放棄地で栽培した地元産蕎麦を楽しむ

# 13

## しゅう あがの衆



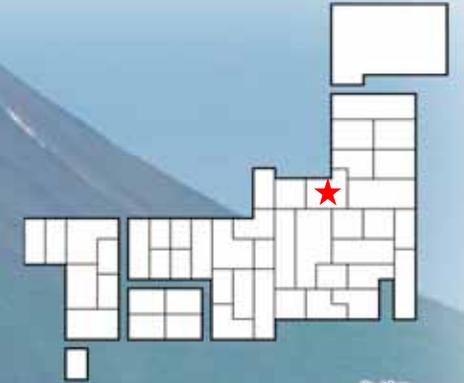
— 地元を愛するひとつのチーム「あがの衆」 —



隔月開催の飲食店への生産者見学ツアー

ビジネス部門

6次産業化



あがの  
所在地：新潟県 阿賀野市



阿賀野市の食の匠集団「あがの衆」

### 概要

- 若手の経営者と農家が、それぞれの経営資源を連携することで、お互いの課題解決を図り、地域振興。
- 地元農家等による「あがの風土キャラバン」と連携し、都市住民が参加するイベントにおける地元ブランドの提供や田植え体験等を開催。

### 成果

- 開発したブランド牛「あがの姫牛」は、コロナ禍においても売上が増加し、5,000万円（平成28年）から1億8,000万円（令和元年）に増加。
- 県内の飲食店を対象として、あがの姫牛を含めた阿賀野の農業・酪農PRを目的に体験ツアーを実施し、800人が参加（令和元年度）。14



あがの風土キャラバン

## 小菅沼・ヤギの杜

— コキア（ほうき草）の灯りプロジェクト —

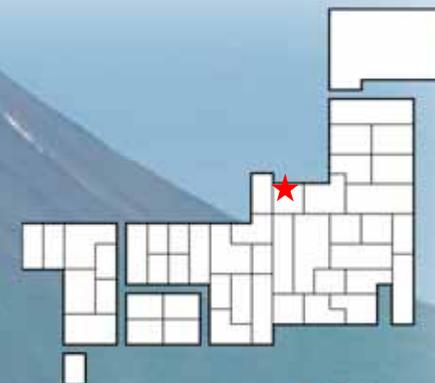


稲作アート田

コミュニティ部門

環境保全

食育教育



所在地：富山県 魚津市  
うおづ



ハーブの利用方法等の説明を受ける参加者

## 概要

- 少子高齢化・過疎化により耕作放棄地が増加し、集落の存続が不安視されていた中、原野化していた棚田を復元し作物を栽培。
- メンバー、農村サポーター等の参加で、作物の作付け・収穫体験や稲作アート等を行い、交流を促進。

## 成果

- 耕作放棄地を解消してコキアやハーブ等の作付けなどで有効活用。その面積は1.2ha（平成27年度）から3.3ha（令和元年度）に増加。
- 作付け・収穫、藍染め体験やほうき作りなどのイベントを開催。交流・体験参加者は150人（平成27年度）から800人（令和元年度）に増加。



にんにくを植付け次年度につなぐ



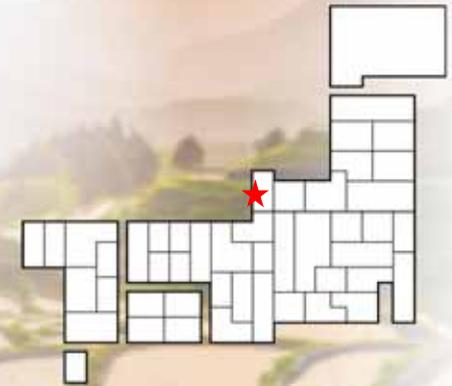
— 農業・福祉・医療の架け橋になる！ —



農園従業員と施設外就労の障害者との写真（前列中央が本人）

個人部門

農福連携



所在地：石川県 内灘町



地域の小学生が、毎年農業見学に来園

## 概要

- 農業の高齢化を農福連携で補うことで、農業の発展及び地域の活性化に貢献し、施設外就労で共生社会を実現。
- 農福連携として年間6施設と関わり、収穫物の6次産業化や小中学生等への食育も実践。

## 成果

- 障害者や高齢者が活躍できる場を提供しつつ生産量も増やし、農福連携の委託料は40万円（平成29年度）から153万円（令和元年度）に増加。
- 県農福連携促進アドバイザーとしてマッチングに関わっており、県内のマッチング数は、9件（平成29年度）から50件（令和元年度）に増加。



農福連携の一環で行う、小松菜の収穫作業

おはら えこ

# 小原ECOプロジェクト

— 再生古民家を拠点とした交流 —

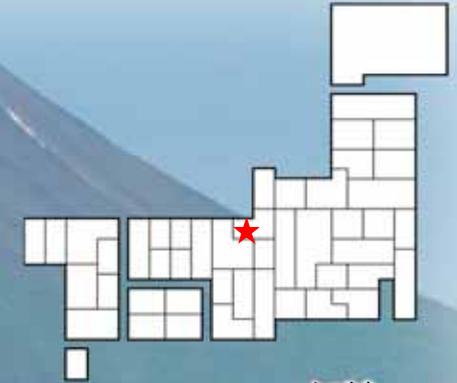


福井工大生による伝統的古民家の修復再生活動

コミュニティ部門

農泊

環境保全



かつやま  
所在地：福井県 勝山市



国際ワークボランティアの棚田保全・農作業支援

## 概要

- 小原集落を拠点とし、都市住民との交流による地域活性化、自然資源の保全・保護等を目的に活動。
- 明治時代以降に建築された県内唯一の建築様式を取り入れた古民家を福井工業大学の学生と協力して修復。

## 成果

- 過去5年間、毎年1,300人以上（令和元年度：1,350人）が地域に來訪しており、エコツアーには毎年300人以上（令和元年度：320人）が参加。
- 地域に生息する絶滅危惧種のミチノクフクジュソウの保全活動には、NPO関係者や小学生など毎年130人以上が参加。



希少種ミチノクフクジュソウ保全活動

# 17 岐阜県立岐阜農林高等学校流通科学科



— 生徒が“先生”、生産者とともに育むGAP —

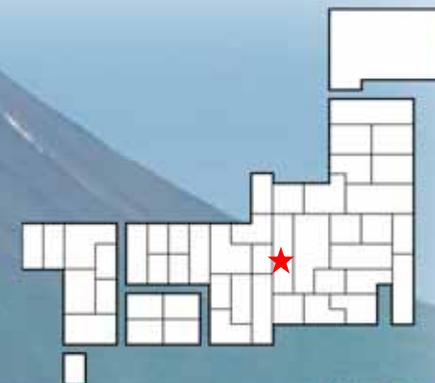


オリパラホストタウンとしてカナダ人へのGAP食材を利用した「神前結婚式」のおもてなし

コミュニティ部門

若者の活躍

GAP



きたがたちょう

所在地：岐阜県 北方町



JGAP果樹の栽培管理風景

概要

- 地域農家にGAP認証のノウハウを公開するなどの支援を行い、農家のGAP認証取得に貢献。
- 官民一体となり、オリパラのホストタウンとしてGAP食材を使ったおもてなしを企画。GAP認証の柿によるパスタ開発、品質管理を徹底した新品種米の普及等を行う。

成果

- 農林水産省「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」生産局長賞、内閣官房「GAP食材を使ったおもてなしコンテスト」事務局長賞、「お米甲子園」「日本一おいしいお米コンテスト」W受賞、等。
- GAP認証活動面積は、2.5ha（平成29年度）から63ha（令和元年度）まで拡大。



明治記念館にて岐阜の農産物PR

# 榎前環境保全会



— 水田魚道でどじょうの育み米とふれあい活動 —

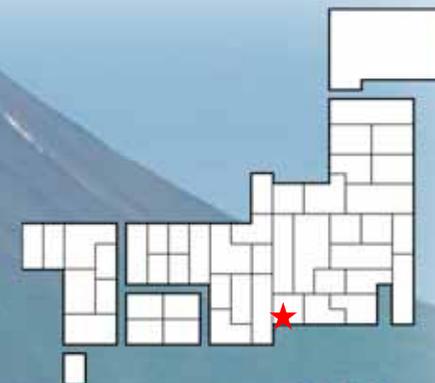


水田魚道観察会 大人も子供も興味津々

コミュニティ部門

環境保全

高齢者の活躍



所在地：愛知県 安城市  
あんじょう



減農薬米「どじょうの育み米」水田

## 概要

- 平成14年より「福祉」・「防災」・「環境」をコンセプトに地域内のふれあい活動を開始。平成18年に水田魚道を設置し、平成19年に農地・水・環境保全向上対策（現・多面的機能支払交付金）の活動組織を設立。

- 魚道観察会や季節の祭り等を開催。減農薬米「どじょうの育み米」をブランド化、ふれあい活動で広報誌発行や交流会、防災訓練等を実施。保全活動において耕作放棄されていた田畑でサツマイモや大豆を栽培。

## 成果

- 魚道観察・生き物観察には毎年300～400人が参加。「れんげまつり」・「ひまわりまつり」には毎年1,500人程度が参加している。
- 「どじょうの育み米」は消費、防災用備蓄の他、米粉入りパンに利用。
- 「豊かなむらづくり全国表彰事業」農林水産大臣賞等を受賞



防災訓練（炊き出し）で活躍する町内女性

# 桑名もち小麦協議会

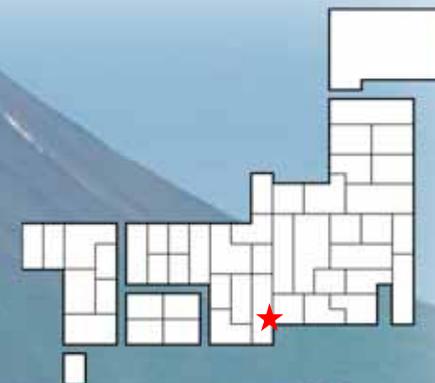
— 世界に届け！日本品種もち小麦のブランド化 —



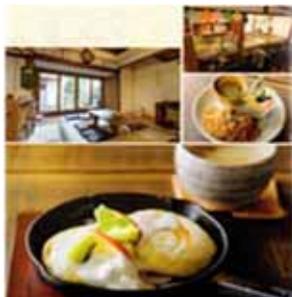
地元の特別支援学校の生徒による昔ながらの麦ストロー作り

ビジネス部門

新しい産地づくり



くわな  
所在地：三重県 桑名市



古民家を活用したカフェでもち小麦メニューを開発

概要

- 小麦卸売、地元農家、パン屋による「桑名もち小麦プロジェクト」に加え、県、市、商工会、JAの連携により「桑名もち小麦協議会」を平成29年に設立。
- 地元でのPRイベントの他、首都圏・海外（台湾等）へも展開。
- 地元学校との協力や農福連携も実施。

成果

- 令和元年度において、もち小麦の出荷量は15t（4年で2.5倍）、使用する飲食店等は50店（4年で5倍）、首都圏や台湾でも販売。
- アンテナショップのメニューを地元高校と検討、麦を使ったストロー生産を特別支援学校と連携する等、教育や福祉との連携も進む。



香港・台湾の展示会に出展

## 高橋 幸照



— つながり名人！“つながり”が村と心を耕す —



立梅用水の歴史を伝える高橋さんの紙芝居

個人部門

地域づくり



所在地：三重県 たき 多気町

### 概要

- 農家の高齢化、後継者不足が進む中、福祉活動のため一般社団法人「ふるさと屋」、農地の利用集積等のため農事組合法人「元丈の里営農組合」を立上げ。
- 6次産業化（米粉パン、日本酒）の立上げ、都市農村交流（まつり、視察ツアー）の企画、企業との連携（発電、観光）推進等を手掛ける。

### 成果

- 福祉活動や農業の担い手を確保。
- あじさいまつりは1日1万人の人出となるイベントに昇華。特産品や米粉パンの売上は年間250万円を超え、地域活性化に貢献。



絶品の米粉パン「たきパン」



ふるさと勢和の様子

## 大和平野土地改良区



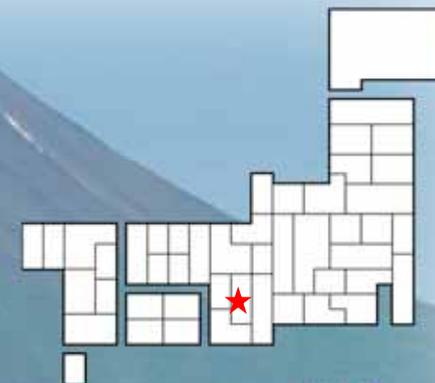
— 吉野川分水～この水を未来に引き継ぐ～ —



稲刈り体験

コミュニティ部門

環境保全



所在地：奈良県 橿原市



源流トレッキングツアー

## 概要

- 水の恵みを受ける者と育む者とで水のつながりを軸とした交流を図り、吉野川分水のありがたみを伝える。
- 小学生を対象とした源流体験や田植え・稲刈り体験、一般募集による源流トレッキングツアーなどにより、環境意識を高める取組を実施。

## 成果

- 田植え、稲刈り、源流トレッキング等の参加者数は、45人（平成27年度）から106人（令和元年度）に増加。
- 令和2年度に吉野川分水歴史展示館をオープンし、子供から大人まで「楽しみ・学び・親しんでいただける場」を提供し情報発信。



吉野川分水歴史展示館による新たな情報発信



－ 茅葺きを大衆でシェアできるものに －

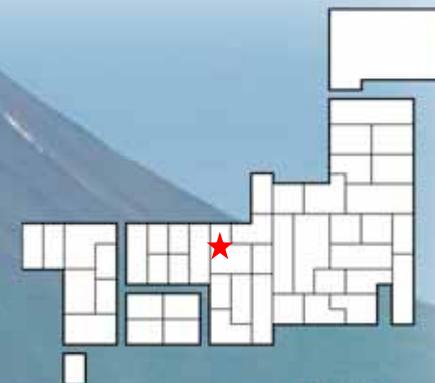


1号店（美山FUTON&Breakfast）の外観

ビジネス部門

農泊

環境保全



なんたんし

所在地：京都府 南丹市



宿泊施設の囲炉裏でくつろぐ観光客グループ

概要

- 空家となった茅葺き民家を一棟貸し宿に改修し、町の飲食店と連携することにより、地域全体をホテルとして運営。
- 一棟貸し宿では、地域産品を100%使用した朝食や、地域飲食店と提携したケータリングの提供等を実施。

成果

- 茅葺き一棟貸し宿を利用した宿泊者数は、1,637人（平成27年度）から2,388人（令和元年度）に増加。
- 廃屋化していた空き家の再生等により、現在4棟の一棟貸し宿を運営、売上高は1,713万円（平成27年度）から3,548万円（令和元年度）に大幅に増加。



100%地域の食材を使った朝食の提供

# 23

## ふくら 福良漁業協同組合



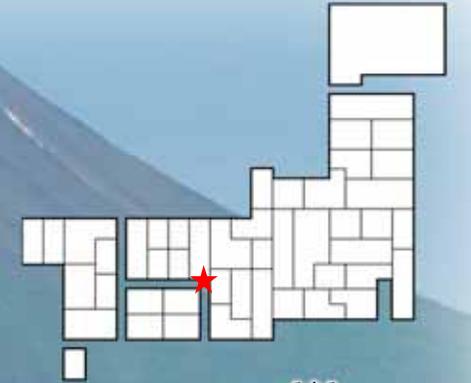
— 淡路島のつくり育てる漁業から地方創生！ —



淡路島3年とらふぐを使った料理

ビジネス部門

6次産業化



みなみ

所在地：兵庫県 南あわじ市



淡路島サクラマスを使った料理

### 概要

- 「淡路島3年とらふぐ」等の養殖を起点として、6次産業化や企業との連携等を通じた地方創生に取り組む。
- 旅館、ホテル、飲食店等、地元の企業との連携によるご当地メニューの開発のほか、地元学校給食への提供を通じた食育にも取り組む。

### 成果

- 養殖の困難なとらふぐやサクラマスの養殖技術を確立し、ブランド化に成功。これらの加工・販売事業の売上高は、1.5億円（平成27年度）から2.3億円（令和元年度）に増加。
- 淡路島内のホテル・旅館・飲食店等で開発されたご当地グルメのメニュー数は、23（平成28年度）から82（令和元年度）に増加。 24



淡路島3年とらふぐで食育の授業

# 24

もかけ

# 裳掛地区コミュニティ協議会

— 地域から始まる、地域がはじめる、むらおこし！ —

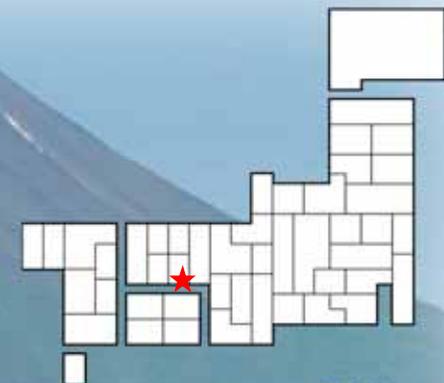


移住者受入れのための空き家を整備

コミュニティ部門

環境保全

移住定住



せとうち

所在地：岡山県 瀬戸内市



移住フェア会場と地元をネット接続

## 概要

- 移住者の受入による地域人口の維持を主眼に、情報発信や空き家等の整備、外部との交流などを実施。
- 地域独自の寺子屋「もかけてらこや」の開設や、小学校支援地域本部の設置を通じた支援なども実施。

## 成果

- 地域誌の発行などにより、農業体験の受入れや地域行事への大学生ボランティアの受入れが、12回（平成27年度）から40回（令和元年度）に増加。
- 平成26年に補助事業で古民家を整備し、交流者や移住希望者、就農希望者の滞在場所として活用する拠点を整備。



道の駅での映画上映イベント

# 25

## 株式会社ウッドスタイル

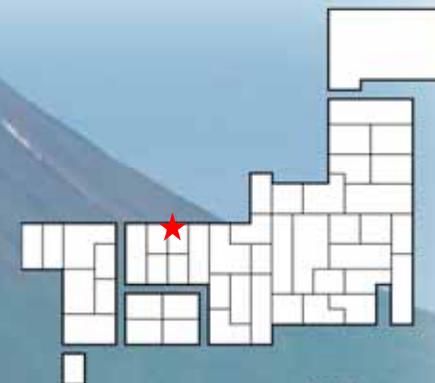
－ 竹を有効活用し世界ブランドへ －



ビジネス部門

環境保全

輸出



まつえ  
所在地：島根県 松江市

加工前後の竹の形状とイタリアインテリア雑誌DDNの表紙掲載



2017年のミラノ・サローネ出展

### 概要

- 丸い竹を平らにする事により「新素材」として新しいマーケットを広げ、家具や建材等に竹を有効活用。
- 竹の伐採・利用により、放置竹林の解消や石見銀山世界遺産センターの展示什器の新設など地域に貢献。

### 成果

- 竹平板家具の売上高は、2万円（平成27年度）から160万円（令和元年度）に増加。
- 農家から竹を市価より高価格で買い取りすることで、農家の収入増加に貢献。孟宗竹の購入量も200本（平成27年度）から900本（令和元年度）に増加。



地元小学生と共に石見銀山の竹の伐採

# 26 株式会社秋川牧園と飼料用米生産者グループ



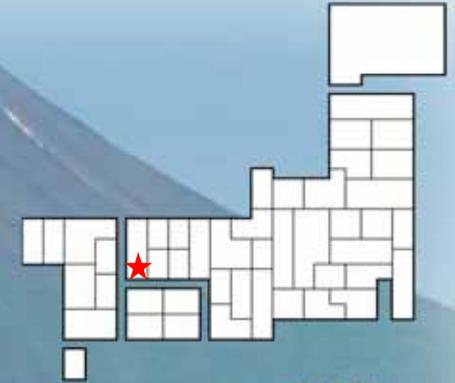
－ エサから作る 1 + 1 + 2 + 3 = 7次産業化 －



地元養鶏場では、本取組による飼料用米が使われている

コミュニティ部門

6次産業化



やまぐちし

所在地：山口県 山口市

## 概要

- 6次産業化を達成している畜産業者が、近隣農家とともに鶏に食べさせる餌まで作る、7次産業化の取組。
- 飼料用米の生産・活用により、耕作放棄地の解消や環境・景観の保全、地域資源を活用した循環型農業の実現に貢献。



令和元年度からは、海外輸出も開始（写真は香港）

## 成果

- 飼料用米の作付面積は、80ha（平成27年度）から121ha（令和元年度）に増加。
- 令和元年度から飼料用米を食べさせた鶏卵の輸出を開始し、約90万円の売上を達成（令和2年度は約100万円の見込み）。



フードアクションニッポンアワード100選にも選出



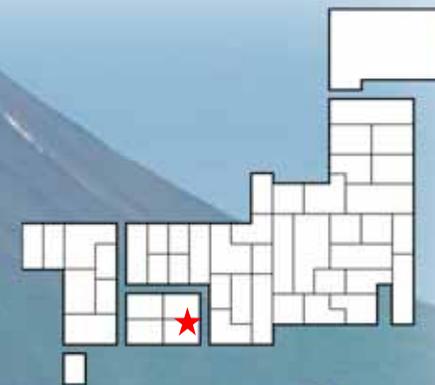
— 野菜でまちおこし！若手農家たちの奮闘記 —



2020年度のポスター

ビジネス部門

農産物の  
ブランド化



あわ  
所在地：徳島県 阿波市



地元幼稚園・小学校での食育活動

概要

- 地域のPRや食育、農業・野菜の魅力を発信し、所得向上や農業人口の増加を目指して活動。
- 地元ブランド野菜を使った地元幼稚園・小学校での食育や、オリンピックでの納品を目指したグローバルGAPの取得を実施。

成果

- 地元ブランドである「GOTTSO美〜<sup>®</sup>ナス」の生産量は、48 t（平成27年度）から150 t（令和元年度）に増加。
- メンバーが出張販売などのPR活動を行う「まちのPR隊」の活動回数は、3回/年（平成27年度）から12回/年（令和元年度）に増加し、野菜の力によるまちおこしに貢献。



東京オリパラに向けて八芳園（東京）でPR

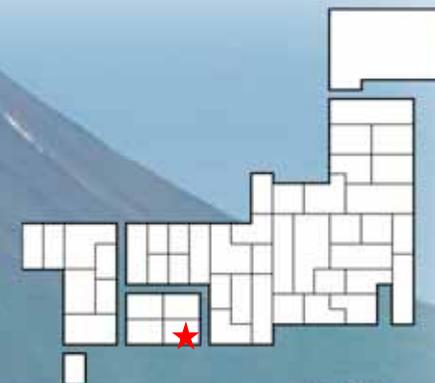


シカ食害のひどい山地で他団体との交流植林体験

コミュニティ部門

新しい産地づくり

鳥獣害対策



所在地：徳島県 なかしょう 那賀町



ミツマタの白皮剥ぎ作業は、人の手で丁寧に仕上げる

## 概要

- シカに食害されないミツマタに着目し、生産から出荷・商品開発まで取り組み、限界集落の活力を取り戻す。
- ミツマタの新商品の開発・流通に成功し、ミツマタを那賀町の名産品としてPRする場が増加。



新たな試み、ミツマタハーバリウム

## 成果

- 植栽したミツマタが平成29年から収穫できるようになり、令和元年度には、ミツマタの白皮製品60kg、枝180束を出荷。
- 平成30年は作業効率を向上することができたほか、新商品の流通にも成功し、ミツマタを那賀町の名産品としてPRする場が増加。

# 29

# どい 愛媛県立土居高等学校情報科学部



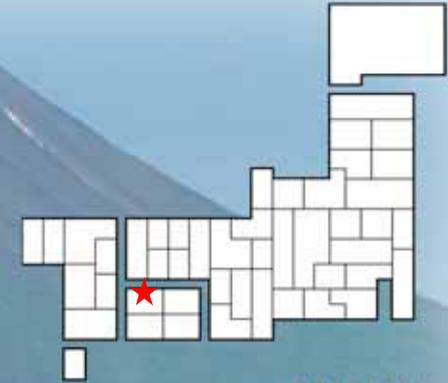
— 地域社会への奉仕と地域貢献を目指して！ —



インバウンド盆栽ツアープランの商品化

コミュニティ部門

若者の活躍



所在地：愛媛県 四国中央市



多文化共生に向けたグローバル・パーティー

## 概要

- 地元が原産地である五葉松の盆栽農家が存続の危機に直面している危機感から、存続に向けた取組を実施。
- インバウンド盆栽ツアーの実施や、コロナ禍におけるオンラインの活用により地方創生に貢献。



オンラインで繋がった参加者

## 成果

- 地元特産の五葉松を核とした広域連携型盆栽ツアーを開催し、参加した外国人によるSNSを通じて五葉松や盆栽文化を世界に発信。
- コロナ禍のなか、Web会議システムを活用したバーチャル観光体験を実施し、子供達にも地元盆栽文化の魅力を発信。

# 30

## 株式会社いとしのいとしま



— 地魚BANKでうまい魚をこれからもずっと！ —

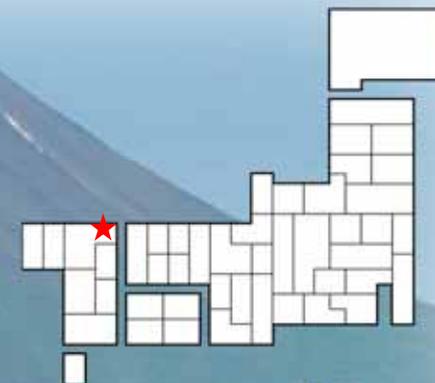


地魚のみを使う海鮮丼

コミュニティ部門

農泊

伝統継承



所在地：福岡県 糸島市



伝統漁法について学び旅する「うお旅」

### 概要

- SNS等を通して漁業が抱える課題を伝え、会員から資金・アイデア等を集め、新サービスを産み出し解決。
- 「地魚博覧会」、「地魚大運動会」等の開催を通じて、糸島の地魚の魅力を伝えることで、美しく伝統ある農山漁村を次世代に継承。

### 成果

- 地魚を使った飲食店、加工品事業により、年間3,700万円の売上を達成（令和元年度）。
- SNS会員数は100人（平成30年度）から300人（令和元年度）に、出資金は約60万円（平成30年度）から約200万円（令和元年度）に増加。



九州大学の留学生を対象にしたワークショップ

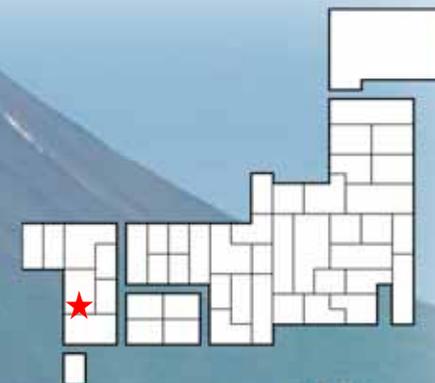
— “食”でまちづくり・人づくり・元気づくり!! —



農泊実践者による食のレベルアップ

ビジネス部門

農泊



所在地：熊本県 人吉市



豪雨災害時のキッチンカーによる炊き出し

## 概要

- 高齢者の見回りなどを行うボランティアグループからスタート。更に法人を設立して、自立した稼ぐ農山村コミュニティビジネスを実施。
- 築120年の古民家を移築・改修し、郷土の家庭料理でもてなす農家レストランを開業し、食育や総菜の製造・販売も実施。

## 成果

- 平成28年の熊本地震、令和2年の豪雨災害の際には、被災者への炊き出しや支援物資の配布等を実施。
- 災害による売上減はあったものの、レストラン部門、お弁当・総菜部門、体験研修部門等において、一定の収益や参加者を確保。



講演 + 食事 + 調理実習の三部研修



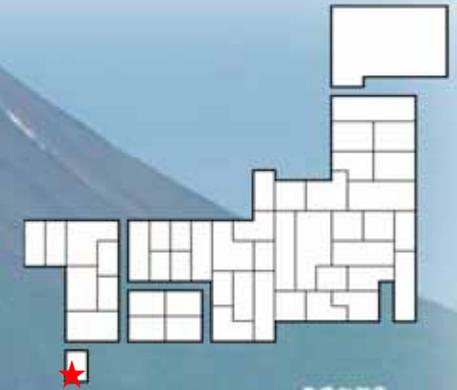
— 宮古島発アロエとヤギの持続可能な循環農業 —



アロエベラ畑の除草にヤギを活用

ビジネス部門

6次産業化



所在地：沖縄県 宮古島市



特殊製法で作られたアロエベラ100%原液

概要

- 日本最大規模でアロエベラを栽培し、生産されたアロエの新商品開発やECサイト販売等で6次産業化を推進。
- ヤギにアロエ畑の除草管理をさせ、糞を堆肥にして畑に戻す無農薬循環型農業を行うとともに、ヤギとふれあえる観光牧園を開園。

成果

- アロエ事業の売上高は、200万円（平成28年度）から1,700万円に増加（令和元年度）。
- コロナ禍においてもECサイトでの売上やメーカーからの受注が好調であり、EC販売は前年度比2倍以上の売上。
- 現在10名の地元出身者を雇用。今後さらなる地元雇用を検討。



地元従業員でアロエを加工